



先週の23日に衆議院が解散され、2月8日に選挙が行われます。衆議院議員の任期は4年なのですが、参議院議員と違って解散があり、前回の選挙から1年3ヶ月しかたっていないのにまた選挙があるのです。小学6年生と中学3年生の時に社会科で政治について学習します。選挙を通じて、政治に対して関心を持つきっかけにしてほしいですね。

自由に発言し、行動する生き方を貫いた人～久米宏さん

「ニュースステーション」という報道番組のアナウンサーとして長く活躍された久米宏さんが、今年の元旦に亡くなりました。分かりやすい言葉で世の中の出来事を伝え、ニュースと視聴者の距離を縮め、現在のニュース番組に大きな影響を与えました。時には政治家に対して、歯に衣着せない言葉を投げかけ、「自由」と「反戦」を唱えた人でした。彼の残した言葉を紹介します。

- テレビや新聞報道の使命とは、時の権力を批判すること以外にないと僕は信じている。
- 日本人の「聞き分けのよさ」「物わかりのよさ」は、結果的に自分の首をしめる。
- 「今さら反対してもしょうがない」という人々の考え方が、先の大戦(第二次世界大戦)を引き起こしたことをみんな忘れている。



明倫教室で



鶴島教室で

土曜塾に参加して、明倫授業中も楽しそうに勉強しているなと思いました。特に英語がゲームをしながら遊んで、休み時間も鶴島がいたりして、メリハリがある感じがして、また、鶴島は児童が聞いても真面目な話をよく聞いてくれる印象でした。高校生活は、体育祭や文化祭などの学校行事も、勉強が魅力の一つです。勉強は、将来を見据え、科目や勉強のペースを調整する必要があります。そのため、早い段階で将来について考え始め、とすごく楽しんでいます。高校受験がんばって3

高校生サポーター
福島櫻也さんからのメッセージ

勉強できるってカッコいい!～同級生の思い出

高校2年生の時だったと思う。現代国語はD先生だった。早稲田大学出身でまだ若く、いつもテンポのよい授業をしていたが、どこかいつも上目線で生徒を少し馬鹿にしたような感じを受けていた。ある日、教科書の中に出ていた「必要は発明の母」ということをわざと英語では何というかを僕らに聞いた。次々と生徒を指名していったが、誰も答えることができずにいた。やがて佐久間の所にきた。佐久間は気負うことなく、平然と“Necessity is the mother of invention.”と答えた。するとD先生は、「佐久間、necessityではなく、necessaryじゃなかったかね。」と聞いた。すかさず、佐久間は「形容詞は主語にはなりません！」と微笑しながら高らかに答えた。D先生は沈黙した。僕は心の中で万歳を叫んだ。「勉強できるってカッコいい」と思った。

佐久間は、クラスで一番勉強ができたが、ガリ勉タイプでは全くなく、嫌みがなかった。サッカーが抜群にうまく、一見遊び人風でスラッと背が高く、彼女もいた。同級生ではあったが、僕は彼を尊敬していた。彼は東大受験には失敗し、早稲田大に入り、後にドイツ語の大学教授になったという。しかし、50代でがんを患い、すでに亡くなっている。高校生の頃をふり返った時、僕はいつも佐久間を思い出す。